

京都観世会四月例会

令和2年4月26日(日) 午前11時開演 (午前10時開場)



主催 公益社団法人 京都観世会

盛久 〈能〉
恐之舞

井上裕久

察化 〈狂言〉

茂山七五三

誓願寺 〈能〉
爰佐之走

観世鏡之丞

葵上 〈能〉
梓之出
変之祈

杉浦豊彦

会場 京都観世会館

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町44 (東山仁王門東入)

お問合せ・お申込み ☎ 075-771-6114

WEBサイトの公演情報からご予約ができます
<http://www.kyoto-kanze.jp>

チケットぴあでのご購入ができます
Pコード：498-567

前売券 (1階当日指定席) 6,000円
当日券 (1階当日指定席) 6,500円
学生券 (2階自由席) 3,000円

京都観世会館案内図



- ◆京都観世会館へは
J R京都駅から —
市バス[5][100]で「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車
徒歩約3分 (乗車時間約30分)
地下鉄烏丸線「烏丸御池駅」にて東西線に乗り換え
「東山駅」下車 (乗車時間約20分)
- 阪急京都河原町駅から —
市バス[31][46][201][203]で「東山仁王門」下車
徒歩約5分 (乗車時間約15分)
- 京阪三条駅から —
市バス[5]で「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車
徒歩約3分 (乗車時間約7分)
- J R二条駅から —
地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約1分)
- 山科・醍醐方面から —
地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約9～17分)
- 地下鉄東西線「東山駅」から —
①番出口から徒歩約5分
- ◆東隣に有料駐車場(約20台)がございます。

京都観世会四月例会

盛久

井上裕久 大乃取喜多雅人 大鼓 河村眞之介
 上層 福王知登 小鼓 林 吉兵衛
 舞昇 廣谷和夫 舞昇 中村宜成
 間 從者 松本 薫

察化

太能冠者 茂山七五三 主人 茂山逸平
 休憩二十分
 主 丸石やすし

誓願寺

観世鏡之丞 一進上人 宝生欣哉 大鼓 亀井広忠
 乏佐之走 從僧 則久英志 小鼓 大倉源次郎
 從僧 御厨誠吾 笛 杉 市和
 間 勇 者 茂山千五郎
 休憩十五分

葵

巫女 河村和晃 兼 平 (仕舞)
 杉浦豊彦 羽衣 分林道治
 雲雀山 深野新次郎
 春日龍神 鷲尾世志子
 浦田保親
 間 從者 井口竜也

後見・地謡

橋本光史 河村浩太郎 吉浪壽晃
 橋本擴三郎 大江広祐 古橋正邦
 味方 團 浦田保浩
 越賀隆之

後見

林 宗一郎 樹下千慧 味方 玄
 青木道喜 大江泰正 河村和重
 橋本忠樹 片山九郎右衛門
 田茂井廣道 河村晴道

大江信行 谷 弘之助 浦部幸裕
 塚本和雄 河村和貴 武田邦弘
 松野浩行 大江又三郎
 吉田篤史 河村博重

【お知らせ】

「字解解説サービス」をご利用いただけます。
 ご希望の方は専用端末を千円(税込)にて貸出致しますので、事前に事務所にてご予約いただくか、会館入口にて通常通りご希望のお席を当日指定後、字幕受付デスクにてお申込願います。
 なお申込用紙にご連絡先等の必要事項をご記入いただき、身分証明書(運転免許証・健康保険証等)のご提示をお願い致します。
 専用端末はお帰りの際に受付にて回収させていただきます。

解説

源氏に生け捕られて鎌倉へ護送されることになった平家源氏主馬の判官盛久は、土屋三郎の許しを得、信仰する清水観音に別れの参拝をし、例に乗せられ東海道を下る。逢坂山を越え、瀬田の浦を渡り、老翁の森、熱田の浦を過ぎ、一命なりけり」と歌に詠まれた小夜の中山、「愛むる瀬瀬」といわれる大井川を過ぎ、富士山の雪をおがみ箱根を越え、はるばる鎌倉に着いた。土屋から明日までの命と知らされた盛久は、土屋にこれまでの厚情を謝し、心静かに観音経を誦する。土屋も聴聞し共に経文の功德を讃える。盛久は少しまどろむうち夢の中で不思議な告げを受ける。朝になり由比ヶ浜に引き出された盛久は、袷を手に最後の座に着くが、太刀をふり上げた太刀取りの目が、経の靈光にくらみ、落した太刀は二つに折れた。頼朝はこれを聞き盛久を召し出し、夢の告げについて尋ねると、両者は同じ夢を見ていたと分る。その夢は、現れた老僧が、都の清水から汝のためにやってきた者だが安心せよ、と告げたというのであった。この奇跡の故に頼朝は盛久を許し、盃を与え舞を所望し、盛久はめでたく退出する。
 『平家物語』にある盛久処刑

お客様へお願い

- ◆特別会員席以外の座席券は、当日午前10時から先着順にお引換えいたします。
- ◆前売券の予約状況により、当日券の発売を取りやめる場合もございます。
- ◆上演中のお出入りはなるべく遠慮ください。
- ◆許可なき写真撮影・録音・録画はお断りいたします。
- ◆場内では携帯電話等の呼出音をお切りください。
- ◆都合により出演者に変更がある場合がございます。
- ◆都内には有料駐車場がございます。満車の際は岡崎公園市営地下駐車場をご利用ください。

【表紙写真】

青木道喜
 金の星渡辺写真場撮影

次回予告

京都観世会五月例会
 令和2年5月24日(日)
 午前11時開演

- (能) 頼政 橋本擴三郎
- (能) 棒縛 小笠原 匡
- (狂言) 千手 浦田 保浩
- (能) 舍利 田茂井廣道

の時の奇跡を題材に、海道下りの風景描写、経の誦、奇跡の処刑場面、男舞、を通して、死に臨んだ鎌倉武士の男気を描く。

誓願寺 乏佐之走
 熊野詣をしていった一進上人は、熊野権現から御札を都に頼朝へ上つて御札を弘めていた。一人の女が現われて御札を受け、「六十万人決定往生」とあるのは往生の人数に限りがあるのかと尋ねる。一進上人は、如來の光明は遍く照らして、済度の人数に限りはないと教え、女は喜んで弥陀の名をくり返し唱え、誓願寺の額を取り除け、上人の手で南無阿弥陀仏という六字の名号をかけてほしいと頼み、和泉式部と名を明かして消える。(中入)

上人が六字の名号を書きつけ、額をかける時、やがて異香薫じ、花降り、音楽聞こえ、歌舞の菩薩となつた和泉式部が、諸々の菩薩衆とともに姿を見せ、誓願寺の由来を語つたのち舞を舞い、来迎した二十五菩薩も六字の名号の額を礼拝するのであった。

(中入)
 怨念の凄まじさに臣下は恐れをなし、從者に命じて行法中の苦しい小聖を呼んで来させた。横川に小聖を前に小聖が数珠を挿んで折棒を始めたところ、御息所の生霊が悪鬼と変じて現れる。強い法力に負けじと打杖を振り上げる怨霊であったが、己の妄念を悟つたのかやがて怒りを和らげて観念し、成仏した身となり去って行く。